




議 長	副議長	事務局長	書 記
			

政務活動費実績報告書

令和8年2月24日

富谷市議会議長 畑 山 和 晴 殿

議員名 荒 谷



下記のとおり政務活動費を使用したので富谷市議会政務活動費運用指針の規定により、次のとおり報告します。

記

使 途	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究費 <input type="checkbox"/> 研修費 <input type="checkbox"/> 広聴費 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動
実 施 期 間	令和8年1月27日(火) ~ 令和8年1月29日(木)
実 施 場 所	神奈川県横浜市、相模原市 ① 横浜市交通局 ② 相模原市教育委員会 ③ 相模原市 Melodies (体験型音楽デイサービス) ④ 愛川町 はーとふる農園 (障がい者雇用農園)
出席(参加)者名	荒谷 敏 議員
実施(調査)成果	別紙のとおり
行 程	(計画と変更がある場合記載)

※各欄に記載できない場合、別紙添付により提出も可能。



政務活動実施調査報告書（成果）

日 時：令和 8 年 1 月 2 7 日（火）午後 2 時～午後 3 時 3 0 分（午後 4 時：バス実体験）

場 所：横浜市交通局（横浜市役所 1 9 階）
・自動車本部営業課

調査項目：横浜市交通局路線バス・連結バス運行状況について

ご対応いただいた方	・営業課観光貸切担当	増 田 修 一	課長	
	・ "	"	庄 子 てい子	係長
	・ "	"	梶 原 章 文	担当者

〈調査報告・成果〉

今回の調査につきましては、本市は仙台市へ隣接しておりベットタウンとし現在約 5 万 2 千人の市となっています。

市民のほとんどが仙台市への勤務や通学をしており、公共交通としては鉄軌道系はなくバス交通又は自家用車を利用しています。

市では、地下鉄延伸や B R T 等の調査を進め、交通環境の整備を進めていますが、現状では、実現へは困難な状況にあると思います。

現在、公共交通を担っているのは宮城交通(株)さんの路線バスであり、現状では市民の交通環境改善にはバス交通の充実強化が最も現実的で、市民要望に応えるためにもバス交通による大量輸送を実現することが政策として有効と考え、この度横浜市交通局さんが運行している二連結バスの情報を入手し、ぜひ、運行概要等について調査を行い本市バス交通充実強化策へ反映するために実施しました。

横浜市では、2015 年 2 月に「横浜市都心臨海部再生マスタープラン」を策定し、都心臨海部の新たな交通システムの導入を検討してきました。もともと、みなとみらい地区や山下ふ頭周辺地区は、鉄道駅から離れていて、公共交通が少ないことも課題でした。この計画では、その課題解決とともに「将来にわたり輝き続け、魅力にあふれた“世界都市”の顔としての都心臨海部を形成すること」もコンセプトとして掲げられていました。

当初、LRT（次世代型路面電車）との比較検討もされたようですが、横浜市の道路事情に沿うものを考えると、連節バスがベストマッチという結論にいたり、導入を決定したとのことでした。

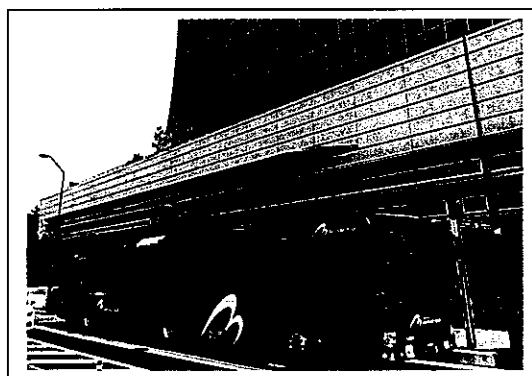
平成 27 年に策定された「横浜市都心臨海部再生マスタープラン」では、地域全体の回遊性を高めるため、まちの賑わいづくりに寄与する新たな交通を導入することとされていました。中でも、MICE施設の整備や客船受入れ機能の強化等が進められている水際線沿いでは移動需要の増大が想定されており、交通機関の早期導入による回遊性の確保が求められていたとのことでした。

このようなことから、平成 32（2020）年までに連節バスを活用した「高度化バスシステム」を導入することとされ、現在では運行から 5 年が経過し順調な運行をされているとのことでした。

今回の調査から、本市においても、バス交通の充実策として、2 連結バスを導入し泉中央駅へのシャトル巡回バスとして市民ニーズに十分こたえられる取り組みになると感じました。

【連結バス BAYSIDE BLUE 概要】

- ・令和 2 年 7 月 23 日 運行開始
- ・定員 113 人（通常バスの 1.5 倍）
- ・台数 4 台



政務活動実施調査報告書（成果）

日 時：令和8年1月28日（水） 午前10時～午前11時30分

場 所：相模原市役所
・教育委員会
・議会事務局

調査項目：学校の働き方改革について（働き方改革・教育DX推進）

ご対応いただいた方	・教育局学校教育部	佐伯 正和	教育DX推進課長
	・教育局教育総務課	高柳 博文	働き方推進室長
	・教育局学校教育部	島田 真人	働き方推進室主幹
	・市議会議会局	増田 美樹夫	議会局長
	・議会局政策調査課	村山 祥子	政策調査課主査

〈調査報告・成果〉

相模原市は、首都圏南西部、神奈川県北部に位置する政令指定都市です。市内にはJR東日本、京王電鉄、小田急電鉄合わせて6つの鉄道路線が通り、近年は、圏央道相模原ICと相模原愛川ICの相次ぐ開業など、交通アクセスの良さを背景に、大きく発展を続けています。

市の中心には相模川が横断し、東側には相模原台地、西側には丹沢山地・秩父山地が広がっており、また相模原麻溝公園や相模原北公園など大規模な公園も多く点在しており、東京都心まで1時間という利便性の高さを持ちながらも、川や山を身近に感じることができる自然豊かな市です。

今回の政務調査は、全国的にも成功事例として紹介されている「学校の働き方改革・教育DX推進」の成功事例として調査に伺いました。

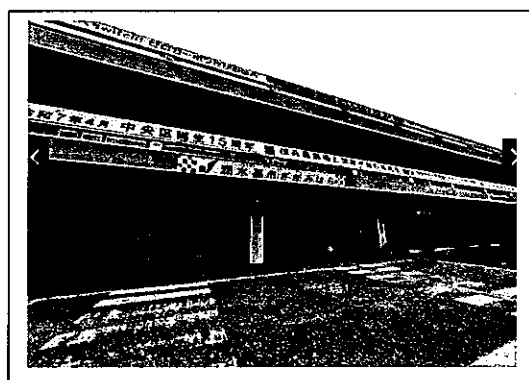
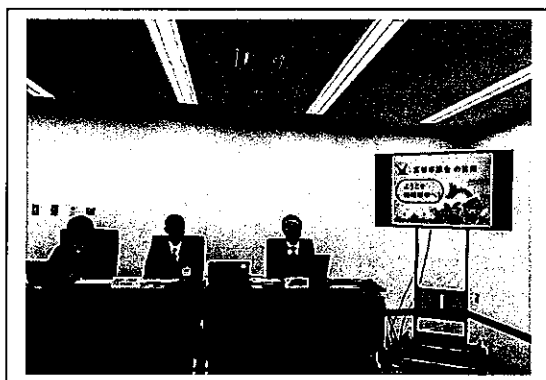
相模原市教育委員会では、学校における働き方改革の目的は、教員のこれまでの働き方を見直し、授業力を向上させるとともに、日々の生活の質を高め、人生を豊かにすることで、教員の人間性や創造性を高め、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことを最大の基本としている。

教育委員会では、平成30年「学校現場における業務改善に向けた取組方針」を策定し、留守番電話の全校設置やスクール サポートスタッフの導入など、

教員の負担軽減を図るための様々な取組を進めています。

令和2年からは、コロナ禍により、学校行事や部活動、授業における指導方法等を見直すきっかけとなり、GIGAスクール構想によって導入した1人1台タブレットPCの活用や部活動の在り方の見直し等、学校の業務改善を積極的に進められています。また、学校現場では、人材不足が大きな課題となっているとのことです。教員が誰にとっても魅力的な職となり、生き生きと健康的に働き続けるためにも、学校における働き方改革の早期実現が求められており、これまでの「取組方針」を総括した内容及び今後予想される学校現場の課題も踏まえた取組をさらに進めていくとのことです。

また、取組の推進に当たっては、学校における働き方改革に対する保護者や地域からご理解をいただきながら、学校と地域が連携を強化する必要があるとのことで、PTA連絡協議会等との連携を図り、情報発信に意識して取組を進めています。文部科学省が進めているコミュニティスクールを今後は導入し「第2期学校現場における業務改善に向けた取組方針」を現在作成しており今後計画的に取組を進めていくとのことでした。非常に先進的な取り組み事例であり、本市においても参考にするとところは多々あると感じました。



若手教員による 学校現場改善プロジェクト 提言書

令和6年11月8日
相模原市若手教員による学校現場改善プロジェクトチーム

政務活動実施調査報告書（成果）

日 時：令和8年1月28日（水） 午後1時30分～午後3時

場 所：相模原市
・音楽ディサービス「Melodies」

調査項目：体験型音楽ディサービスセンター運営状況について

ご対応いただいた方・Melodies ㈱ファイブスター 竹岡 茂也 管理者

・㈱ファイブスター 安西 祐太 代表取締役・理学療法士

・㈱ファイブスター 角田 聡 介護福祉士・音楽療法

〈調査報告・成果〉

今これから介護の分野において注目されると思われる、音楽を使った介護の取り組みとして先進事例である相模原市内で介護施設を運営している、音楽ディサービス「メロディーズ」の取り組みを調査しました。

「メロディーズ」は、プロによる生演奏を楽しめる通所介護施設として「一日中楽にあふれた空間で心から楽しんでほしい」との思いから、2023年に施設がオープンしました。

音楽を聴いて楽しむ「受動的音楽療法」では、さまざまなジャンルのプロが生演奏を披露しています。ギター、サックス、バイオリン、三線、オペラなどのプロが日替わりで施設を訪問し、表現豊かな音楽で、利用者の心を満たしています。

また利用者自身も参加できる「能動的音楽療法」も実施しています。

施設利用者が楽器を鳴らしたり、歌ったりしながら、ゆったりと楽しい時間を過ごしています。また、歌いながら体を動かす「音楽体操」や「音楽ゲーム」なども行っており、介護において音楽をあらゆる方法で利用した活動を行っています。管理者の竹岡さん（介護福祉士）の話では、現在、2年の活動を行い、様々なデータを取り検証しているとのこと。利用者の状況をみると明らかに軽減され生き生きとした生活リズムを持ち日々過ごしており、成果はあらわれているとのこと。

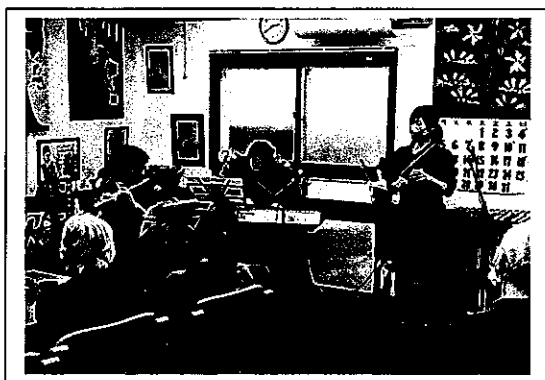
音楽を楽しむことにより心が落ち着き、会話や笑顔が増えた利用者も多いということです。竹内さんは「施設内には常に心地よい音楽を流しており、自律神経を整える効果のあるヘルツ（周波数）にこだわっている」と説明されました。

竹内さんによると、Melodies（メロディーズ）は音楽が持つ不思議な癒しの力を信じた介護従事者、理学療法士、医療関係者そしてプロの音楽家が終結し、創り上げた新しいスタイルの地域密着型の音楽ディサービスと話されています。

相模原市からの行政支援は全くなく、すべて㈱ファイブスターが運営しており、本当に素晴らしい取り組みと感じました。

音楽でまちづくりを進めている本市では、この取り組みを実現出来る環境は整っていると思います。音楽が持つ不思議な力をぜひ介護の現場に取り組むことをすすめていける働きを行っていきたいと思いました。

大変参考となる話を竹内さんからお聞きしました。私どもの政務調査にご協力とお時間をとっていただいたことに感謝申し上げます。



竹岡茂也さん
(管理者)

政務活動実施調査報告書（成果）

日 時：令和8年1月29日（木） 午前9時～午後12時

場 所：神奈川県愛川町

調査項目：障がい者雇用サービス「は一とふる農園愛川」

ご対応いただいた方 ・は一とふる農園 営業本部 仁平 哲治 営業部長

〈調査報告・成果〉

国や自治体から支援を受けずに、各企業とのパートナー契約により障がい者雇用サービスを全国的に展開している「は一とふる農園」事業を政務調査しました。最初に驚いたことは、事業所を訪問した際に、雇用されている方々が、積極的に私たちに明るく挨拶をかわしてきたことと、働いている状況を拝見すると、真剣かつ明るく楽しく仕事（野菜栽培等）をしている姿が印象的でした。

対応いただいた、仁平さんの話では、収入も安定しており、生きる楽しさを感じながら仕事をしている方が多く、中には結婚され生活されている方もいるとのことと素晴らしい取り組みと感激しました。

は一とふる農園のコンセプトは「働きたいといふ思いを実現する、進化した農園型障がい者雇用支援サービス」とのことでした。

障がい者雇用を「数合わせ」に終わらせず、本人の意欲や成長を引き出す仕組みをつくり、現場と企業、双方にとって実のある雇用のあり方が今、求められており、その実践例の一つが農作業を通じて自立と社会参加を支援する、は一とふる農園型障がい者雇用サービスであると感じました。

障害のある方が、安心して長く働き続けねためには、与えられた環境で仕事をするのではなく、「自分は社会に必要とされている。日々、成長できている」と実感できる職場環境が欠かせないと、今回の調査により感じました。

この理想を実現したのが、今回調査させていただいた、は一とふる農園事業であり、運営している仮設資材レンタルのリーディングカンパニー「日建リース工業」様です。

仁平さんの説明では、「農園は障害のある方の就労意欲と企業の雇用ニーズをつなぐ場。働きたい」という思いを支えながら、一人ひとりの力を引き出す場にしたと話されています。企業は農園を活用して障がい者雇用するモデルであり、単なる「数合わせ」（障がい者雇用促進法）ではなく、本人の意思や成長を大切にしたい実践的な支援体制が確立された実例と思いました。

は一とふる農園では、支援体制も万全であり、福祉専門職のワークサポーター、農業技術指導員、多彩な経験をもつセカンドキャリア（シルバー人材センター）の3者が連携して、精神面・作業面・生活面を支援体制も整っています。

仁平さんの話ではこのような支援体制があることで「農園では3職種が連携し就労の技術と気持ちの両面を支えている」ことが困ったときに話せる人がそばにいることは大きな支援体制だと話されています。

さらに、は一とふる農園では、雇用企業の人事担当者が定期的に訪問することを義務化し、面談や業務の振り返りを通じて本人の成長や職場環境の改善にもつなげていくことを実践しています。

こうしたことで雇用されている障がい者の方は「自分は会社の一員である」という帰属意識を育んでいると実感していると話しています。

今回の調査で、障がい者の「働きたい」という気持ちを受け止め、力に変える、は一とふる農園。数合わせではなく意思を起点とした雇用支援のすばらしい形を提供実践していると感じました。ぜひ、本市においても遊休地を提供し、は一とふる農園とみやを提供できる環境を提案していきたいと感じた政務調査でした

